

野鳥における鳥インフルエンザ対策

(1) 事業の概要

アジア各国で家禽のみならず人や哺乳類への高病原性鳥インフルエンザの発生が続く中、平成21年2月、愛知県豊橋市のうずら農家から鳥インフルエンザ発生が確認された。豊橋の事案は、これまでとは異なる点が多いことから知見やデータの収集を強化するとともに、巡視モニタリングなどの実施体制を強化することが必要である。

また、近年の鳥インフルエンザの研究は水鳥やニワトリに関するものがほとんどであることから、専門家からも哺乳類や他の鳥類に関する実験データや知見収集の必要性が指摘されており、知見を深める必要がある。

(2) 事業計画

）巡視モニタリングなどの地域における実施体制の強化

国指定鳥獣保護区等の鳥獣の保護管理上特に重要な拠点を中心に、死亡野鳥等に関する巡視を強化して実施するとともに、対策に関わる機関の担当者に対し研修の機会を提供するなど、地域における感染症対策を強化する。

）ウイルス感染経路解明のための調査

野鳥による高病原性鳥インフルエンザウイルスの運搬の可能性が指摘されていることから、国内の過去の発生地周辺において渡り鳥に送信機を装着し、人工衛星追跡による飛来経路の解明し、ウイルス感染経路の解明に関する知見を深める。

）国内に生息する野生鳥獣の高病原性鳥インフルエンザウイルス感染実験
アジアなど諸外国では近年、哺乳類への感染報告も多いことから、日本国内に生息する野生鳥獣について感染実験を実施し、高病原性鳥インフルエンザウイルスに関する感受性についての知見を深める。

(3) 事業実施主体 環境省

(4) 予算額 112百万円

【野生動物における鳥インフルエンザ対策の強化】

21年2～3月、愛知県豊橋市のうずら農家から高病原性鳥インフルエンザ発生！！

21年4月、アライグマの高病原性鳥インフルエンザ感染歴が発覚！

国内の野鳥の感染症モニタリング調査
(全国規模で実施)

モニタリング実施体制の強化
* 中部地域での発生や野生動物(アライグマ)の感染履歴を踏まえ、巡視の強化が必要。
国内外の知見の収集
* これまで発生がなかった中部地域でも発信器を装着し、渡り鳥の飛来経路解明が必要。
* アライグマなどの哺乳類のウイルスに対する感受性を調べる必要がある。

国内外の専門的知見の収集

渡り鳥の飛来経路解明(北日本、西日本で発信器を装着)等

【要望事項】 巡視・モニタリングの実施体制強化(32,000千円)
ウイルス感染経路解明のための調査(30,000千円)
アライグマなどの野生動物の感染実験(50,000千円)

総合的・効果的な対策による国民の安全・安心の確保